

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

| | |
|-------|-----|
| 受託団体名 | 山形県 |
|-------|-----|

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

| | |
|-----------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> | I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携） |
| <input type="radio"/> | II型（単独型：特別支援学校高等部のみ） |
| <input type="radio"/> | III型（単独型：高等学校のみ） |

②モデル校の一覧

| 設置者 | 学校種 | 課程又は障害種 | 学校名（ふりがなを付すこと） |
|-----|--------|---------|---|
| 山形県 | 特別支援学校 | 知的障がい | やまがたけんりつたておかとくべつしえんがっこう 山形県立楯岡特別支援学校 |
| 山形県 | 特別支援学校 | 知的障がい | やまがたけんりつたておかとくべつしえんがっこうおおえこう 山形県立楯岡特別支援学校大江校 |
| 山形県 | 特別支援学校 | 知的障がい | やまがたけんりつしんじょうようごがっこう 山形県立新庄養護学校 |
| 山形県 | 高等学校 | 全日制総合学科 | やまがたけんりつあてらざわこうとうがっこう 山形県立左沢高等学校 |

2 研究課題

特別支援学校における就労支援・キャリア教育のさらなる推進及び地域連携、特別支援学校のセンター的機能を活用した高等学校における特別な支援を必要とする生徒への就労支援・キャリア教育の充実をめざして

3 研究の概要

平成28年度新たにモデル地域及びモデル校を指定し、各地区・各学校の課題解決に向けた取組により、地域全体の就労支援の充実を図る。

就職支援コーディネーターの事業所等訪問による、現場等における実習の受け入れ先や就労先の開拓を行う。また、事業所等訪問で得られた情報を各モデル校の進路指導主事が中心となって共有する。

モデル校の楯岡特別支援学校では「小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の研究及び実践」、楯岡特別支援学校大江校では「地域連携基盤の充実」、新庄養護学校では「就労コース開設に向けた地域連携体制の構築及び学校設定科目『職業実習』実施に向けた準備」、左沢高等学校では「高等学校における発達障がいなど特別な支援を要する生徒へのキャリア教育・就労支援等についての研究」を中心課題として研究を進める。

4 研究の成果

(1) 就職支援コーディネーターの配置と活用

- ① 就職支援コーディネーターが各市町の福祉担当者や各種事業所等への訪問時に、2種類のリーフレットを配付しながら面談することで、本事業及び障がい者雇用に対する理解啓発を図ることができた。
- ② 事業所訪問の件数は106件であった。そのうち、求人開拓件数は1件、前向きに雇用を検討する企業・事業所は20件、実習受け入れ企業・事業所58件であった。
- ③ 本校高等部3年生の現場実習時に、担任と連携しながらの生徒の実習先を巡回指導するとともに、卒業生の観察、指導者側との情報交換等を行うことができた。現場実習での生徒や卒業生の姿から、どのような力をつけて送り出せばよいか、具体的に学ぶことにもつながった。卒業生の追指導の点でも、どのような仕事ぶりか見ることができ、貴重な場となった。
- ④ 事業所訪問で得た情報を各モデル校の進路指導主事と共有することで、各校での進路指導等に生かすことができた。

(2) 就職支援ネットワーク会議への参加

- ① ハローワーク主催の企業と進路指導に関わる教員の情報交換会や進路指導主事会議に参加することで、地域における求人動向や各校の進路指導についての情報が得られた。
- ② 生徒が居住する自治体の福祉課担当者と、受けられる福祉サービス等を確認することで、個々に応じた進路指導にあたることができた。

(3) 授業等への専門家の招聘

企業や専門職の方から直接話を聞き、職業現場で必要な力や支援のあり方を学ぶことができた。楯岡特別支援学校の就職支援コーディネーターによる、キャリア教育にかかわる地域の講師人材紹介と、山形市方面のグループホームや就労先の情報をいただき、進路学習、進路指導に取り入れることができた。

地域から世界へ向けて事業を展開している企業家を講師とし、全校生徒を対象に講演会を行った。挫折を乗り越え、チャレンジしていった講話の内容から、生徒は夢を持って働くことの喜びや生き方について考えることができ、就労意欲を喚起し、将来の取り組みへの意欲向上を図ることができた。

(4) 新しい作業製品等の開発

高等部木工班の作業製品の開発に向け、特別支援学校の作業学習（木工）に詳しい前校長を講師に招聘した。木材のベンチ作成に向け、試作品づくり、作成時のポイント等、具体的・実践的な取組になった。併せて、生徒の就労に対する心構え、社会生活に対する関心・意欲・態度の向上を図ると共に、木材を使った作業製品作りにおける教員の指導力向上も図ることができた。（①1月24日（火）、②2月28日（火））

(5) 研修会、公開授業研究会の実施

① 楯岡特別支援学校

- ・保護者進路学習会「なるほど！THE進路」（7月21日）

保護者・教員を対象に、事前に集約した保護者アンケートに基づき、各パネラーが意見を出し合うパネルディスカッション形式の進路学習会を実施することができた。

- ・就労支援セミナー（高等部教員、参加希望教員）（11月29日）

障がい者雇用制度、職業評価・重度判定、ジョブコーチ支援制度等に関する理解を深めるとともに、ジョブサポートばるの利用等についても知ることができた。

- ・キャリア教育研修会（1月6日）

国立特別支援教育総合研究所 主任研究員を講師に、「生徒が就労して働き続ける人になるために、学校のキャリア教育はどうあるべきか ～好事例を通して～」と題して研修会を行った。近隣の学校教員や就労関係者からも参加があり、参加者自身、キャリア教育に関する理解推進に役立てることができた。

② 新庄養護学校

小学部、中学部、高等部、寄宿舎指導員が研修への参加できるよう体制を整え、学校全体で就労コースの設置に向けた取り組みを行うという意識が高まった。

③ 左沢高等学校

連携校や近隣中学・高校へ案内し、全て公開研修会とした。外部からは、連携校である楯岡特別支援学校大江校やキャンパス制をしている県立寒河江工業高等学校からの参加があり、地域校と本事業の効果を共有することができた。

第1回・第2回研修会では、特別支援が必要な生徒についての理解を深め、学習環境や指導法の見直しを図ることができた。ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを各教科担当者間でまとめ、実践することで、授業評価アンケートの2項目で向上させることができた。このことから、分かりやすく且つ興味関心を引き出す授業実践へとつなげることができ、生徒の自尊心・自信・意欲を向上させることができたといえる。

〈授業評価アンケート〉評価向上項目

(①当てはまる②やや当てはまる③あまりあてはまらない④まったくあてはまらないの4択)

- ・「先生は毎時間授業のはじめにその目標を示していますか」

(6月「あてはまる」6月53.7%→12月55.0%)

- ・「先生の授業は知的好奇心を引き起こされますか」

(6月「あてはまる」6月36.0%→12月37.2%)

第3回研修会では、特別支援が必要な生徒への就労支援の方法、外部機関との連携の取り方について理解することができ、支援の組織作りに大いに参考になった。

(6) 先進校視察の校外における研修・諸会議での発表

- ① 児童生徒のキャリア発達を促す授業づくりやキャリア教育・就労支援等の充実事業の研究発表会に参加し、キャリア教育・就労支援等についての研修を深めてきた。

※ 先進校視察

ア 山形県立鶴岡高等養護学校 (7月12日(火))

イ 東京都立羽村特別支援学校 (1月26日(木))

ウ 京都府立鳴滝総合支援学校 (2月 2日(木))

エ 京都府立東山総合支援学校 (2月 3日(金))

オ 文部科学省「平成29年度インクルーシブ教育システム推進事業に関する補助金説明会における講義」 (2月17日(木))

- ② 県外研修に参加した研修報告会で、上記イ～エの内容を取り上げ、職員間で共有することができた。 (2月23日(木))

- ③ 先進校を視察し、各学校の取り組みについて得た情報を職員間で共有し、日々の授業や次年度の

キャリア教育の実践に向けて、参考にしたり検討したりすることができた。

5 課題と今後の方策

(1) 課題

- ① 特別支援学校の高等部生徒が増加している中で、卒業後の進路開拓は大きな課題である。進路指導主事が中心となって企業開拓を進めているが、担任を兼ねているためなかなか外部に出向くことが難しい。併せて、卒業生の追指導も十分にはできない状況にある。就職支援コーディネーターが培った関係機関等との連携について、より一層継続、発展させていく必要がある。

- ② 就労に関する保護者のニーズは多様化している。教員自身、キャリア教育や進路指導等に関わる内容を理解し、児童生徒・保護者に対応していく専門性が求められる。

- ③ 平成29年度から開設する就労コースの教育課程や指導内容について、職員全体がさらに周知を深め、就労支援のありかたについて研修を深めていく必要がある。

- ④ 次年度も、企業との連携を通し、就労するために必要な力、職業現場で求められる力について教職員の理解を深めるとともに、外部の関係機関に本校の生徒の特性等を知っていただく機会を設定し、就労の促進につなげていく必要がある。

- ⑤ 最上学園の児童、生徒の就労先が県内の広域にまたがり、校内業務を行いながら各地区の情報収集が困難なケースが予想される。また、就労コース開設に伴いデュアル実習の受け入れ先や就労先の開拓もさらに必要になってくる。

(2) 今後の方策

- ① 就職支援コーディネーターが作った人脈、企業や事業所とのつながりを生かしながら企業開拓をより一層進めていく。卒業生の追指導のあり方も検討し、より地域に根ざした連携を充実させていく。そのためにも、訪問した企業・事業所に関する情報を実習受け入れ・雇用に向けて必要な力など、観点別に集約・整理し、日々の授業づくりや進路指導等で活用できるようにしていく。
 - ② キャリア教育や進路指導に関わる研修会を継続していく。そのためにも、どのような時期にどんな内容を教員だけでなく保護者も学んでいくべきか、研修内容も体系化していく。
 - ③ 校内の進路研修会などで、就労コースの教育課程や指導の実際について報告しながら、教職員の共通理解を図っていく。
 - ④ 就労コースの教育課程の「職業実習」を軸に企業連携を深め、企業や福祉関係機関へ、学校見学会等を企画し、本校の理解の推進を図っていく。
- ⑤ 校内業務の整理や指導体制の工夫で担当者配置や時間を設定し、進路先の情報収集を行っていく。さらに、就職支援コーディネーターにも協力をお願いしていく。